



サカタニ友の会 ニュース

暗殺！

ついで、23日にマ

レーシアの先遣で北朝鮮最高指導者金正恩朝鮮労働党委員長の異母兄金正男氏が暗殺されたニュースをテレビで知った。余り政治に絡むと書かない様にしているとんからりんは先月ベリン・メキシコの壁のトを書いた。その翌月だけに、ふと昭35年に日本で起こった安保条約賛否の演説会会場で起こった浅沼暗殺事件「写真」を思い出した。

その頃は、父が社長の酒間屋(株)酒谷本店勤務 休業日、一度アロ野球中継をのんびりとTV観戦中に、起こった暗殺事件、突然、場面が暗殺トース写真に代わり驚いた。



権力が支配者に集中していた封建時代や独裁者が圧政を引いている国なら支配者を殺せば、暗殺、権力移動は出来るかも知れないが、民主主義の国ではそうならなら

(写真) 浅沼次郎暗殺
1963年(昭和35)10月12日に東京都日比谷公会堂で、演説中、17歳の右翼少年・山口二矢に暗殺された。

が多いが、正しい国名は、朝鮮民主主義人民共和国、被害者は、その国の超権力者のお身内。らしい。

私の青年時代、既に亡くなったが、親友、朝鮮国籍の、3歳年上の、洪△△君が居た。字は美しく、歌は美声で上手い。賢くて優しい男だった。が、その彼も日本に植民地化された朝鮮半島を取り返そうとして「パルチザン」で戦った朝鮮の指導者 金日成キム・イルソン將軍を敬愛していた。その姿勢を見て、戦時中の日本国民の天皇陛下に対する姿と似て、国名に 民主主義が入っている国なのに、何故に個人崇拜と、当時、少し違和感を感じていた。

何故とか言えは、私達の国民学校時代、毎日の朝礼で、東を向いて、宮城遥拝の号令で最敬礼(敗戦で廃止)をし、天皇は神の子と信じさせていた。今回の事件はその二重の意味に、感じ、犯人が学んだ個人崇拜教育の結果が、暗殺に繋がった様に思った。

世界中の国で、殺人を、許している国はないだろう。が、戦争を放棄した日本も含めて、殺人をしかねない軍隊は殆ど国が有している。人を救う害の「宗教」が戦争の源になっている国々今も有るようだ。が、一人の人間を「暗殺」しても、少々の影響は有つても、民主主義が有れば、その体制が代わるはずがない。トランプさんなら、占いで先が見えるかも知れない。が、塀をつくりのお忙し様だ。

発行者
株式会社サカタニ
第四系サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・東山区七条二丁目
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
月刊 発行員新聞
編集 酒谷 義郎
yosirou@sosake.jp

第3日曜開催日2月19日(定例:朝9時)
第145回: **朝粥食べておしゃべり会**
ご講演とお歌: 山本欽也様(報告者) 山本知弘様



本日の講師は
みやこ唱歌の会 主宰の
テノール歌手 山本欽也さん
ピアノ伴奏 杉本弥生さん
テーマ: イタリアアカンツォーネを
皆さんと名曲を歌おう！
主宰の「みやこ唱歌の会」は健康に通じるコーラスをされているとの事。大きな声で歌を歌うと、気持ちが発散でき精神衛生上いいし、歌で息を大きく吐き出すことは呼吸を整え、病気を未然に防いだりするそうです。また、笑顔で歌うことは脳細胞を10歳若くえらせるとの言葉。コーラスをされている方は、いつまでも健康で若々しい人が多いと思うので、納得の言葉でした。イタリア留学の経験を話す山本さん、イタリアについて思ったことは、日本語は歌に適用していい「特に関西弁は母音が浅く、母音が浅いのは世界でも日本人だけだとか。母

音を深くするため意識して口を縦にして歌うといいそうです。日本でも歌のうまい歌手は、口が縦で息がなるほどの説明でした。そんな、さすがの知識よりもさらに素晴らしいのは、やっぱり山本さんの歌でした。おなじみの三大カントーネ「サンタルチア」、帰れソレントへ、オーソレミオー」を杉本さんの美しいピアノの伴奏に乗せて歌う山本さん、サカタニホールを一時でナポリにある世界最古の現役オペラハウス「サンカルロ劇場」に変えてしまふほどの勢いのテノールでした。名曲「Time to say Goodbye」、そして皆で歌った童謡「春よこい」春が浅いのは世界でも日本人の中島みゆきの「春」だけだとか。最後まで楽しく、笑顔の朝粥会でした。



音を深くするため意識して口を縦にして歌うといいそうです。日本でも歌のうまい歌手は、口が縦で息がなるほどの説明でした。

毎月七日・恒例
七条大橋をキレイにする会
日時: 三月七日 火
集合: 七条大橋 東詰南
作業時間: AM9時~10:30
◇掃除用具・手巾・雑巾・小さいスコップ等
各自ご持参等ご持参ください。
◇終了後 集西案サカタニ
時間お茶を飲み
反省会
写真撮影協力中のフー
リパッドのお二人



七条大橋を手キレイにする会
☆京都市には、未来に継承に優れた都市環境の形成に資するものや景観づくり活動に「京都景観賞」が創設されています。今年度は、七条大橋をキレイにする会の活動が「審査委員会推薦賞」に値すると表彰式に参加する様にとのご案内を戴きました。ピッリ！
日時: 平成29年3月1日 土
1時30分~4時 入場PM1
場所: ひと交流館京都 大会議室
〒605-0851 京・東山区西木町通り上ノ口上る
受賞式は臨席可。ご参加を！

どんつき △もう満83歳になったので1月号から何な坂こんな坂で題した自伝的なミヅヲを書き出した。
▼我が家の男子は祖父は58、父は63で没している。私は91歳まで生きて呉れた生みの母の血を継いだの今月83才だが今も元気。
▼目標は、母を越すとしているでも記憶力が著しく低下した。つい今先に手放した。物探すと再々春と一緒におくも来たか。
▼それを何とかと、身体を鍛えている。AM430に起きた体操40分。最後は腕立て伏せ百回。後お粥食し6時30分に店つゞきに出る。夜勤者を労うため。
▼大変な事だと思うが、長年続けている。身体になじんで自然体で続けられ苦にはならない。本質的貧乏性なのだろう。
▼とんからりんも60才だ。若い時代は苦ならなかったが、チヨットしんどくなった。カネバー病と言病には、効能がある薬が無いよつてもチヨイ、ガンバろう！
▼投稿の協力も載いて紙面も豊かになった。私も封印をしていた諸をなだ坂こんな坂で書き出そうと思つて、
もう時効だから
▼振り返ると、あの時に一と思つても有るだろうが、もつこの歳笑うしかない！否！全が良かったので、今が有ると喜ぼう！
▼ふと、気が付いて、身内親戚を点検した。私より年上の人は三人。男一人女二人になつてた。
その代り、年下は増え、モトも増えるだろう。
△3月号お掛けされてフンマン。
サカタニ友の会
再入会せよ！

なんだ坂 こんな坂

我が家は、曾祖父竹次郎の代に、宇治市炭山から祖父喜郎を頭に男二人女一人の子を連れ京都、東山区北斗町へ移つて来た。曾祖父は、一橋小学校の用務員。長男の祖父は、本町七条角、現「フル」の津之興、醬油屋に勤め、其処で祖母きぬと出会い結婚、同家の借家、現在の店の四軒裏に居を移した。祖父は、曾祖父が早死し、第二人と妹を養うのに大変苦労をしたらしい。

※我が家を「ビル化」した際、壊した壁下地蔵祖父の家、家賃を出さず判じ。大正初年、主家津の興の跡継ぎの養子が出奔、祖父父母が、残された妻子と「店」のあと始末をお引受け、丸津の屋号で酒屋を開業。後、現在地に借家し移転した。写真昭14頃、看板はも店に有、幼児は也。その家は、奥に大きな土蔵があり、酒蔵から直接仕入れた「原酒」を入れる大きな酒桶が二本あり、瓶蒸釜の設置、殺菌瓶詰し、上等酒は神馬、並酒は喜、オシヨ」のラベルを貼って売っていた。昭15頃まで、以後酒免許制度で禁止、開業時は、七条通、橋梁橋や東海道線東山トンネル工事等も有り、労働者の来店も多く、作業場にも酒を納めたのに儲けたの



に儲けたの

だろう。幼児の頃、昭14頃既に配達にオート三輪を使っていた。そして上の弟には、左京区吉田で「酒場」下の弟に京阪三条で「米屋」、妹を大工の嫁に嫁がせた。番頭も、別家威にも、居酒屋開店を勧め、毎月16日に店で「神馬会」と名の会合を開き勉強をしていた様だ。父に何の話をするのと聞いたら「チエンスストア」の相談や！と言った。70年以上昔を思い出し、今や普通になったそのシステムを創り上げようとしていた58才で亡くなった、酒屋の初代、祖父喜一郎に尊敬の念を強くした。その祖父を支え、私を母代わりに育ててくれた亡き祖母きぬにも感謝したい。

稲荷山 ぶらり散策記 (26)

越智重史

伏見が観光地である。双方がうまくかみ合わなければならぬ。稲荷山界わいを歩いていくと観光まちづくりについて考えさせられる。そもそも「観光」とは、観光する側「ゲストの側」から見れば、大抵が、日常生活する場を離れて、余暇活動や生きがいとして、日常と異なることを見聞きし体験し、楽しみ、日常に戻ってから生活を向上させるものであり、観光を受け入れる側「ホストの側」から見れば、地域の文化や経済を振興し、人々が地域で生きてゆくための基盤となるものという。この双方の違う目的が観光地という場所で重なる場所

好き嫌い ゆうてる場合？

京都嫌 朝日新聞 本が

から出て、大いに話題になったのは知っていた。今更という気もあつたが図書館に予約し、とんと忘れていた。最近わたしの番が来て、読み始めた。驚きはなかったが、例えば「中華」意識の存在は、折々に感じて来た。が誰しも故郷は特別なわけで、わけても千年の都が歴史や文化に恵まれた地となれば、誇りたい空気は不思議ではない。

ただ、伏見や嵯峨の辺りも、宇治も、京都ではない」という話は今もって面白すぎる。私など50年近くのご縁を頂き、上京区と通りを隔てた北区に居を定めて、8年近いが、「ここで暮らせたら日本どこでも暮らせませう」と太鼓判を押され、変に納得しつつある。いや、ギリギリのラインだろうが「天然」別格、不思議系の

絶滅危惧種」を自認し、是非々々と割り切れば、結構楽しく過ごせている、ようなきがしている。長く学校に務めてきたが、卒業生の名前を呼ぶ、イントネーションで失笑を買ったことは記憶に残っている。同僚も地方出身者が多く、日常はさほど気にはならなかったが、ある時「おおきに」と言ったら「違う！」と返されたのにはおそれいって。驚き、言い直したら「それも違う」と言われた。その人も近江の出だったが。

で、思い起したのは「マルシー」というフランス語。8年昔になろうとしているが、初めてその地に旅立つときに「マルシー」を練習してくるよう言われた。なるほど、日に何十回となく言われる、現地の皆さんの「マルシー」に感激した。歌うように、愉し気に、しかも、少し違ったフレーズで、発音していたのである。それに引き換え、なんだ、京都のこの不遜な「違う」という排他的なそり方は、と。それ以来、パリと京都

光を展開する層も増えているという。アジアからの子ども連れ観光客も増えている。JR稲荷駅に降りても上質な情報発信らしきものはほとんど見当たらない。もう一度、地域住民の立場から見ても、はつきり言つて、観光と直接関係していない住民にとつては、観光客は地域環境を荒らしてしまうやつかいもの、ゴミだけをまきちらす迷惑な存在なのである。そのためには地域が余裕をもつてホスピタリティを発揮できる環境づくりをしなければならぬ。行政がしきりに言う「おもてなしの心」というわけも分からない言葉にも振り回されたくない。

商店街も観光商店街化されているが、地元客も観光客も双方が楽しめるものにしてほしい。日本の中心市街地で買い物客が減少する理由に、品揃えが悪いが調査結果にも出ている。活性化している商店街では、歩いて楽しいというのも上位を占めている。観光も人気商売である。伏見稲荷も今は賑わっているが、この先どうなるかわからない。東京オリンピックを期待する声もあるが、これも一過性である。持続可能な「観光まちづくり」をそれぞれの立場から議論する場が緊急に求められているだろう。



必要があるだろう。そのための情報発信も欠かせない。最近では単に表面的なものではなく奥深い観

京都&東山 ぶらりピカリ

74

七条通

②

地味だが京都の導

美大」が有ったが、校舎が拡張で
きず西京区に移転した。その美大
は、近い将来、崇仁小学校跡地に
戻ることが決まっているが、旧貞
教小学校跡地を改装し私立京都美
術工芸大学が開校
される。京阪七条
駅直近の鴨川東岸
線沿いに、上の写
真の校舎が既に出
来ている。全国で
も一・二の高齢者
率の高かった東山
区も学生達の増加
で若返るだろう。
過って、この辺
りは、清水焼や扇
子の絵付けや大工
左官職などが多く
住んで居た町だった。我が小学生
時代、一学年3クラスで全校で8
00人だったが、近代化の波で
廃校になり、当時の面影は、瓦
「靴」「塗師」「棟梁」「鍵屋」「鐘
鏝」等の町名でしか残っていない。
い。



が、生前から指定していた墓地
がある。多分御所から南東「辰巳」
で吉方だから選んだのだろう。そ
の麓には、幼稚園と大学まである
京都女子学園。東大路と七条通り
京都三叉路「ボンツキ」突当り「智積
院」三十三間堂。国立京都博
物」西に進めば、京阪電鉄七条駅、
更に、架橋以来百年以上。鴨川も
東西交通を支えた「七条大橋」を
越えて西にJR京都駅、東西の
本願寺や興正寺」野球の名門校平
安高校。更に京都中央市場。近々
その近くに「R山陰線の新駅」が
出来る。更に西に進めば、西国街
道や山陰方面は国道に繋がる。
この様な条件は、七条通りの他に
はない。素晴らしい通りだと思う。
只、公共工事等は、過って
御所」が有った名残りでか、北
から南の順に進められる様に思え、
北尊南卑の施策だ」と悔しく思っ
たことも有った。最近若干修正
された様だが、今度は、下南
モミミウミ」が手厚い気がする。
架橋の順で言えば、七条大橋
が兄で四条は弟橋だが、奴は、戦
時供出で獲ら
れた欄干も照
明塔が戻され
たのに、七条
大橋のは、安っ
ぽい電柱のマ
マ!。戦後72
年経った今も、
ホツタカシは嫌
どま。

注 酒屋「フジ」に夢を我傳せと言
えはいと免す が、この七条通
りは、京都市内の東西の通りで
最高に通りだと思ふ。東と突当
たりは、東山三六峯の一つ「阿
弥陀ヶ峰」の頂上は豊臣秀吉公



時供出で獲ら
れた欄干も照
明塔が戻され
たのに、七条
大橋のは、安っ
ぽい電柱のマ
マ!。戦後72
年経った今も、
ホツタカシは嫌
どま。

市電が走った 京都を巡る

73

福田静二

高野

高野橋の
停留場を
出た市電は、

高野川を渡って北大路通を東と向か
います。高野川の東側に沿うのが川端
通として少し行て、現在の左京郵便
局の前で交差するものが古くからの大原
街道になります。

この二本の道路は、ほぼ平行しながら
東北方面に向かっていますが、かつて
大原街道は、八瀬・大原方面に向かう
唯一の道でした。その大原街道沿いにあつ
たのが鐘紡京都工場で、以前は「ヨギリ
屋根」の紡績工場が続いていました。昭和
五十年に閉鎖され、跡地は「イズミヤ
高野店」となり、付近のお買い物センタ



高野で東大路へ曲がる市電

として市電の頃から賑わいを見せていま
した。
そして到着するのが「高野」の停留場
です。京都市電の東北端に位置する停
留場。昭和十八年の高野一百万遍の
開通時に設置されています。

前号でも記したとおりですが、昭和十
八年以前にも「高野」停留場はあり、そ
れは、先ほどの大原街道の交差点付近
にありました。当時の路線は「一」まで、
東へ延長される形で、現在の高野交差
点に市電の停留場ができました。さら
に「時期」は、一乗寺道と名乗っていた
ようで、この停留場でも幾多の交差
を重ねていくことが読み取れます。停
留場を出ると、右直角「カブ」東大路
線に入るとになります。

市電末期に、高野まで運転されてい
たのが13号系統でした。四条河原町新
極を始発として、河原町線、北大路線
を経由して運転され、中心部から東北
部への輸送を担っていました。

この系統の折り返しのため、高野には
渡り線が設けられていました。この系統
は鳥丸車庫所属で、車庫入りするため、
高野・鳥丸車庫前に「臨系統」も多く
見られました。そして市電の表示幕は
たかひらかなで表示されていた
ことも特徴です。とくに難解な漢字
でもないのに、ひらがな表示としたのは
不明です。

いま高野交差点の東側には、高野中
学校があります。以前と言つても昭和
二十年代ですが、ここには、また中学校
がなく、交通局の用地として引込線が
延びていました。

買い物客で賑わっていた



私も知らない時期ですので、先輩の目
撃談を引用しますと、引込線には、京
都市電創業時の車両である「形電車」が
ボロボロの状態。二〇〇三〇両も放置
されていたそうです。もともと東北部
の系統の増強のため、車庫の建設用地
として確保されていましたが、資材不足
のため、車庫の建設は中断。先輩が目
撃した時は、市電の廃車置き場になっ
ていました。そのために京都市立高野中
学校が建設されることになりました。
ここから東も北大路通は伸びていて、
三乗寺・北白川方面向かい、北も東
大路通は伸びており、修学院方面へと
向かいます。現在の高野交差点は、交
通の要衝として、また、付近の買い物セ
ンターとしての機能を引き継いでいます。

何んだ坂 こんな坂

③



我が家の先祖は、宇治市「現」山奥「炭山」から、

曾祖父の代に京都に移り住んだ。当初は、本町19丁目に住み、曾祖父は「橋校の用務員・祖父は、醤油醸造業の「津之興」カールKの場所」で働き、同僚の祖母「きぬ」と出会い結婚し北斗町に移り住んだ。明治末年、主家の後継者が幼児の頃「経緯」になり、主家の家族を支援、債務整理で残った同家借家「現在地西野」に住み、主家の債務とご家族の扶養も引受けた。その頃、七条通拡張、国鉄東海道線の東山トンネル工事等々で労務者も多くつて繁盛、借財返すが進み、奥に土蔵も有る現在地に借り店を移した。店は「雪見」、カウンタが有る酒場を併設。酒を注文される方に無料で塩豆を出し、安い「下ブ酒」も売っていた。祖父は、伏見の幾つかの酒蔵から

「原酒」を桶毎買い一案駅近くの運送屋・稲荷組のタンクローリーを使つてから運び、蔵の大きな酒桶に保存、利き酒し調合。大きな釜で殺菌、神馬「シメ」ラベルを貼り販売していた。弟や親戚に、長く勤めた丁稚さんに酒場経営を勧め、毎月、会議をし業績を伸ばした。今も千本の「神馬」や北区「うじい酒場」は、会のメンバーだった。以下中断4月号〇

花灯路 額額史子

京の春の風物詩に、東山の花灯路があります。京都市内でも古くからの町並みが多い京の山、自然の造形も美しい清水寺までの北は青蓮院から南は露地行灯が照らす、幻想的な灯りのイベントです。

照らし神仏の世界へと導く象徴だとも言えます。これを、伝統と近代が交差する京都の現在文化に置き換えるなら、灯りは過去の精華を照らし、華々しい未来へと導く象徴と言えるかもしれません。新時代の京都の風物詩となることを目指して2003年に始まった東山花灯路は、まさにそんな京都の「いま」を映し出しているように思います。京都の風情あふれる石畳の道を、情緒ある行灯の光が照らす華やかな春の灯の路。早春の夜風にゆれる灯のゆらぎは、安らぎとともに春の訪れを人の心に届けてくれます。

編集後記
▽2月は日しかなく、とんからりん「作成が忙しなかった。31日の月も有るのに、なんでや！」その理由が知りたいなあ。
▽今月で83才になった私、第1号紙名は「アトウ」は1955年6月から発行してきた。もう22年になった。途中何度か休刊したが、今号は210号。当時は、黒かつた頭髪も、殆ど白くなつたクロも多かったのに：何じやろホイ！
▽辛いにして、眼は良い。今も左右共1.5。チヨット辛いが裸眼で新聞が読める。勉強嫌いで使う頻度が少なかつた成果だろう。
▽が、記憶力が一段と落ちた。今先に使つてた「ボールペン」を置いた場所を忘れる。大昔食べた美味いうどんを覚えてる癖に！
▽「とんからりん」でも同じ事を何度も書いてる様だ。お優しい読者様だから抗議されないのである。
お読みで無いのかも！
▽今年から「何んだ坂」こんな坂「欄」を書き出した。自分史の心算で、もう時効なの、面白い「拘置所」の経験も含めて書く心算。
▽商売で、破産寸前の辛い経験をした。だが、時が味方して呉れて、良く何時も救われた。石油ショックや金融緩和等々。
▽が、最大の救いは、友の会の会員様とお客様。身体を鍛えながら89歳まで現役です。後6年ですが宜しく願います。

「原酒」を桶毎買い一案駅近くの運送屋・稲荷組のタンクローリーを使つてから運び、蔵の大きな酒桶に保存、利き酒し調合。大きな釜で殺菌、神馬「シメ」ラベルを貼り販売していた。弟や親戚に、長く勤めた丁稚さんに酒場経営を勧め、毎月、会議をし業績を伸ばした。今も千本の「神馬」や北区「うじい酒場」は、会のメンバーだった。以下中断4月号〇

多都く残り、自然の造形も美しい清水寺までの北は青蓮院から南は露地行灯が照らす、幻想的な灯りのイベントです。2003年余の歴史ある京都には様々な伝統行事があり、中でも「花灯路」がテーマになったものが多い。京都ならでは、これも神社仏閣の神様や仏様に捧げる灯りを灯明と人間界と神仏の世界をつなぐ光の道であり、灯りを捧げることで魂が安らぐとされています。特に仏教の世界では、お・釈迦様が残されたお言葉に「自らをかりとし、法をかりとせよ」とあると言われ、灯明は必要な供養のひとつとされています。五山の送り火も、八坂神社の千灯の火祭も、灯りはこの世の闇を照らし神仏の世界へと導く象徴だとも言えます。これを、伝統と近代が交差する京都の現在文化に置き換えるなら、灯りは過去の精華を照らし、華々しい未来へと導く象徴と言えるかもしれません。新時代の京都の風物詩となることを目指して2003年に始まった東山花灯路は、まさにそんな京都の「いま」を映し出しているように思います。京都の風情あふれる石畳の道を、情緒ある行灯の光が照らす華やかな春の灯の路。早春の夜風にゆれる灯のゆらぎは、安らぎとともに春の訪れを人の心に届けてくれます。

では燕はあまり見ないのですが、思ひ出があまりしてね。実家の方では、燕がよく飛んでいました。狭い商店街の屋根や玄関に決まって巣があるんですよ。という事は、親燕が巣から出てきて餌を取りますでしょうか？あれね、結構危なくて。自転車やスピードで飛ばしている時にその商店街を通り抜けたらスリルってば無い。燕といつ正面衝突をするか。正面衝突をしたら、こちらだって無事で済まない。しかし、一時間二本の電車に乗り遅れたら授業に間に合わない。動体視力をフルモードに切り替えて、燕の飛んでくる位置を計算しながら通ったのも危ない。歩いていて通り抜けるのも危ない。燕商店街、よく自転車走れたなあ。これが、若さゆえというものであかね？

何んだ坂
こんな坂
③
我が家の先祖は、宇治市「現」山奥「炭山」から、曾祖父の代に京都に移り住んだ。当初は、本町19丁目に住み、曾祖父は「橋校の用務員・祖父は、醤油醸造業の「津之興」カールKの場所」で働き、同僚の祖母「きぬ」と出会い結婚し北斗町に移り住んだ。明治末年、主家の後継者が幼児の頃「経緯」になり、主家の家族を支援、債務整理で残った同家借家「現在地西野」に住み、主家の債務とご家族の扶養も引受けた。その頃、七条通拡張、国鉄東海道線の東山トンネル工事等々で労務者も多くつて繁盛、借財返すが進み、奥に土蔵も有る現在地に借り店を移した。店は「雪見」、カウンタが有る酒場を併設。酒を注文される方に無料で塩豆を出し、安い「下ブ酒」も売っていた。祖父は、伏見の幾つかの酒蔵から

春の訪れ！ 月三天

驚がそここで鳴いているそうで、練習中で、まだまだ上手に鳴けないそうです。しかしそれが愛らしくてききいってしましますね。



春の訪れ、うちに、草が生えたんですよ。新しい草です。昨年はいないの無かつたのに、

今年ここに生えたのかというよな、何だかむしろ取ってしまうのがもったいない。だからそのままにしています。ということ、うちの春の訪れを告げてくれたのは草です。チュリッやその他の名前を憶えていない花を植えたのですが、こちらは日照権が悪いせいか成長が遅いので

す。しかしながら、それはそれで後の楽しみが増えると言ひもの。三月は啓蟄ですね。けいちつと読みます。虫が地中からムクムク出てくる目安の時です。イヤですね。虫は嫌いなんです。なんかこう、なんか。そのままだにしておくと目に入ったり、口に入ったり、食べ物の中に入ったりしますし、潰すと気持ち悪い。できれば潰したくないので、「ツツ、シツ」と手で追払うのにきりが無いでしょう？そして極め付けが大型の虫たち。駄目なんです。本当に。道を歩くと必ず遭遇しますからね。自然がまだ残っているという証拠ではあります。受け入れがたいもの達です。ああそういえば、燕ついでにいらっしやるのでしよう？今のうちの近辺

では燕はあまり見ないのですが、思ひ出があまりしてね。実家の方では、燕がよく飛んでいました。狭い商店街の屋根や玄関に決まって巣があるんですよ。という事は、親燕が巣から出てきて餌を取りますでしょうか？あれね、結構危なくて。自転車やスピードで飛ばしている時にその商店街を通り抜けたらスリルってば無い。燕といつ正面衝突をするか。正面衝突をしたら、こちらだって無事で済まない。しかし、一時間二本の電車に乗り遅れたら授業に間に合わない。動体視力をフルモードに切り替えて、燕の飛んでくる位置を計算しながら通ったのも危ない。歩いていて通り抜けるのも危ない。燕商店街、よく自転車走れたなあ。これが、若さゆえというものであかね？

何んだ坂
こんな坂
③
我が家の先祖は、宇治市「現」山奥「炭山」から、曾祖父の代に京都に移り住んだ。当初は、本町19丁目に住み、曾祖父は「橋校の用務員・祖父は、醤油醸造業の「津之興」カールKの場所」で働き、同僚の祖母「きぬ」と出会い結婚し北斗町に移り住んだ。明治末年、主家の後継者が幼児の頃「経緯」になり、主家の家族を支援、債務整理で残った同家借家「現在地西野」に住み、主家の債務とご家族の扶養も引受けた。その頃、七条通拡張、国鉄東海道線の東山トンネル工事等々で労務者も多くつて繁盛、借財返すが進み、奥に土蔵も有る現在地に借り店を移した。店は「雪見」、カウンタが有る酒場を併設。酒を注文される方に無料で塩豆を出し、安い「下ブ酒」も売っていた。祖父は、伏見の幾つかの酒蔵から

写真 幼児は私、父は右から二人目、酒看板派、今もファミマ内に掲示

